

インフルエンザの治療

今年1月に入ってインフルエンザの流行が始まりました。
同時に溶連菌感染症、ノロウイルス胃腸炎なども流行しています。

インフルエンザにかかったら

①西薬

1. タミフル(ドライシロップ、カプセル)
2. リレンザ(吸入薬) 1日2吸入、1日2回
3. イナビル(吸入薬)
 - 1回1吸入、1日1回
 - 1回2吸入、1日1回(10歳以上)



※1日で
終わります

②漢方薬

1. 麻黄湯
2. 桂枝湯
3. 葛根湯
4. 小柴胡湯
5. 柴胡桂枝湯

これが有名になりました！

が、胃腸が弱い方、高齢の方には注意して使って下さい。
吐き気、動悸などが起こることがあります。

適応は、胃腸が丈夫な方、基礎疾患(心臓、腎臓、肝臓などの病気)がない方、小児、若年の方は大丈夫です。

コメント

インフルエンザにかかった時に麻黄湯を飲んでもなかなか解熱しない時があります。その時は次の手をうちます。

例えば、

Ⓐ (27) 麻黄湯 + (28) 越婢加朮湯

Ⓑ (45) 桂枝湯 + (55) 麻杏甘石湯

などの強力バージョンを試してもらいます。

コメント

①+②は特に問題ありません。
タミフル+麻黄湯っていうのも有りです。
しかし、両者を組み合わせたからといって、
早く熱が下がるというデータはありません。



③注射薬 ラピアクタ®

これは全身状態が悪くて、薬が飲めない、吸入もできそうにない人を対象に使います。

点滴注射をしますが、時間的には20-40分です。

この注射を受けた方は、①あるいは②の治療は不要になります。
通常1回の点滴で終わりとなりますが、発熱が持続するなどの状況に合わせて、主治医の判断にて2回目の点滴を行うこともあります。

最終的には...

①、②、③のどれを使っても大半の方は2日以内に解熱します。
ただし、インフルエンザは解熱した後に咳が続く、全身倦怠感が残ることが多いです。



➡ 漢方薬で行くなら、治療の仕上げに
補中益気湯を1週間くらい飲むと元気になります。

腰から下の冷えには漢方薬を！

ウエストラインから下

- ① 八味地黄丸(はちみじおうがん)
 - ② 牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)
- ※高齢の方に適応が多いです。

下肢、特に四肢末端

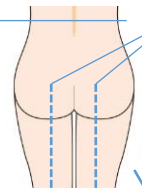
当帰四逆加呉茱萸生姜湯
(とうきしぎゃかごしゆしゅうきょうとう)

臀部から下肢

桂枝湯(けいしとう)
+ 麻黄附子細辛湯
(まおうぶしさいしんとう)

腰から下肢

苓姜朮甘湯
(りょうきょうじゅつかんとう)



お知らせ

小児夜間急病センター当番日

2月13日(金) 19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院

こども健康セミナー開催のお知らせ

2月20日(土) 13:30- 外来にて
「漢方薬を試し飲みしてみましょう」

有名な処方を試飲します。
その後、説明します。

